

# 2001～2002年照明探偵団倶楽部新規会員募集・継続手続き

7月から照明探偵団倶楽部の新年度になります。これまで会員だった人は迷わず更新。会費の先取り支払いも歓迎です。

また皆さんの周りの興味を持ちそうな方々にも会員募集を宣伝してください。少しずつ、会員の輪を広げていきましょう。

さて、照明探偵団は現在、強力なインターネットのホームページを立ち上げようとしています。従来のホームページも（良く読むと）内容の深い記事がいっぱいあるのですが、海外への発信も含めてもっとアクティブな情報交換のシステムにしていきます。皆さんからも、どんなホームページであって欲しいか、ご意見をいただけたらと思います。

今年の探偵団倶楽部は「街歩き」と「探偵団サロン」と「探偵団通信」とを相互に連動しながらやっていくつもりです。これまでは、ややもすると毎回初心者向けの教育的街歩きになってしまいがちでしたが、これからは毎回、街歩きのためのテーマと仮説をはっきりしていきます。そしてその成果をサロンに活かし、通信にも連動していくつもりです。

徐々に新しい発見のための探偵団倶楽部にしよう、というものです。毎回の街歩きやサロンのご案内を見逃さないようにしてくださいね。

## 照明探偵団倶楽部の概要

1. サロンの研究会を定期的で開催する。
2. 街歩き照明調査などの探偵活動を随時行う。
3. 機関誌「照明探偵団通信」を発刊する。

## ■入会

入会資格 特になし

入会金 無料

年会費 1000円 2002年6月まで（振込み手数料別）

## ■入会・継続手続き方法

1. 下記口座に年会費を振り込む。  
「あさひ銀行青山支店 普通預金 1075901 照明探偵団団長 面出薫」
2. 入会申込書に必要事項を記入する。 ※継続の方で登録内容の変更がない方は「継続」に○を付け、  
名前のみ記入し、「年会費振込み済み」とコメント欄に明記して下さい。
3. 入会申込書、振り込み金受領書のコピーを事務局へ送る（FAXまたは郵送）
4. 以上で、入会・継続手続きは終了です。諸活動について随時ご連絡いたします

## 照明探偵団倶楽部入会申込書

私は照明探偵団の活動主旨に賛同し、**新規・継続**  
照明探偵団倶楽部に入会を申し込みます。（どちらかに○を付けて下さい） 申込日 年 月 日

連絡先	フリガナ							
	名前							
	住所 〒							
TEL/FAX	TEL:	FAX:						
	e-mail							
勤務先/学校	勤務先名							
	学校/学館名							
	住所 〒							
TEL/FAX	TEL:	FAX:						
性別	男	・	女	生年月日	T. S. H.	年	月	日
お知らせ方法(希望に○)		郵送	FAX	e-mail				
コメント欄								



事務局へ  
FAX 03-5469-1023

探偵団通信の送付先、諸連絡を行う先を連絡先欄にご記入ください  
※銀行発行の振込金受領書のコピーも送付してください

# 面出の探偵ノート

●第26号 2001年5月26日 土曜日

ミラノ徒然／世界中から集合した150人の照明デザイナー



ヨーロッパ照明デザイナー協会 講演会

原稿はいつも飛行機の中で書く・・・というのが癖になってきた。こんなことばかりしていると、そのうち飛行機に乗らなければ原稿もろくに書けなくなってしまうかも知れない。山の緑に囲まれたそよ風の書斎なんて夢なのではないでしょうか。まあいいや、今日はミラノの馬鹿騒ぎを逃れて、NYへ向かうLH711の機内からのレポートです。

昨日まで4日ほどミラノの街中で暮らしました。やれやれ、得体の知れない4日間でした。イタリアの商工会議所 (INTEL / International Electrotechnics Electronics and Lighting Exhibitions) からの招きで、23日～26日までミラノ国際見本市会場で照明の見本市。それに相乗りして、ヨーロッパ照明デザイナー協会 (ELDA / Europe Lighting Designers Association) が “Light Focus 2001” という「会議と講演会とパーティがごっちゃになったようなイベント」を企画した様子です。未だにこの招待企画が何だったのか良く解らない人も多いのだが・・・。招待者の一人、照明デザイナーの海藤春樹さんなどは、指定されたホテルに着いても何のプログラムももらえずに、大切なデザイナーズ・ディナーにも参加できずに勝手に行って勝手に帰ってきたらしい。まあ、海藤さんもイタリア人に負けず劣らずの楽観主義者だから、余り怒った様子もないけれど、普通なら招待者に対するノーアテンドは重罪です。イタリア人のすることだからいいか・・・てなところでした。

しかしこの楽観的な招待は、ずいぶん規模が大きい。私は昨年の12月頃に誘いを受けていたのですが、直前の一月前にも6名ほどのご招待があったりして、日本人だけでも私の知るかぎり11人もの方々が旅費と宿泊費をINTEL持ちで招待されたのです。イタリア政府もずいぶんの太っ腹・・・とは思いませんか。そのほかに大勢のヨーロッパ各地のELDA会員や、アメリカ、カナダからもIALD(International Association of

Lighting Designers)のメンバーも招待されたのです。事務局の人は「150人ほどの世界的な照明デザイナーの方々・・・」と書いていたのですが、著名なデザイナーの全てが集まったわけではありませんが、盛況だったことは確かです。

どうしてこんなに沢山の照明デザイナーを集めるための金が出たのか解りませんが、多分一月前に行われた、ユーロルーチェ (Euro Luce) との確執があるのでしょうか。細かいことですが、昨年からは始まった Frankfurt Messe(Light and Building) は隔年開催で、その間にこのINTELが開催されます。しかし今年からは4月初めに恒例のEuro Luceが催されて、しかも5月末にはLas Vegasで “International Light Fair” もあるのです。

Euro Luceはイタリアを中心とした、どちらかというと装飾的なデザイン照明器具に寄っていて、INTELは電材機器なども扱う技術照明寄り・・・という風に位置づけられるのですが、片やアルテミデ+フロスというイタリアを代表する老舗がスポンサーシップを崩さないのに対して、INTELの方はイグッチーニとタルゲッティという、イタリア照明業界での新興勢力がスポンサーシップを握る、という構図にあるようです。それだから、国際的な照明業界の見本市は明らかに、ドイツ、イタリア、アメリカという3国が主導権を争っているのです。その他にはスペインのバレンシア照明見本市や、イギリス、アメリカで開かれる舞台イベント照明器具の見本市、そしてどうなることか解りませんが、来年はパリでもINTELのようなものが開催される予定だそうです。今時、見本市などやっていかほどの意味があるのでしょうか。私には理解できませんが・・・。

何事も批判的に構えてしまうのが私の悪い癖ですが、今回の得体の知れないほど沢山の照明デザイナーや関係者が一堂に会した、ということはとてもおもしろい場面をたくさん残してくれました。日本からは海藤さんの他

に、石井幹子さん、近田玲子さんも参加し、パリに住む石井さんのお嬢さん石井明理さんと近田さんが公式レクチャーをしました。NYからは私の旧友 Charles Stone、イギリスからは Jonathan Spare + Mark Major の各氏、パリからは Louis Clare も来ていました。昨年の秋にコペンハーゲンとストックホルムで私がレクチャーをしたこともあって、たくさんの北欧の照明デザイナーやその卵たちとも、楽しく会話が出来ました。おもしろい場面というのは、これらの国際的照明デザイナーは色々な局面で仕事上の競合をしている、ということです。だから、表面的には大げさに友好を図っているのですが、私に小声で言うことは批判と嫉妬と自己顕示欲の固まりのようなのです。なかなか生身のデザイナーというものは健気なものだと悟りました。悪い人ではないのですが、時に子供のようなこともあります。そのような競合する人たちが、どのようにして職能協会を楽しんでいくのでしょうか。

私はヨーロッパで講演をするようになったり、英文の本が出版されたり、雑誌に私たちLPAの仕事が紹介されるようになったので、随分たくさんの人が私の名前を知っていました。でも照明デザイナーというだけでなく “Lighting Detectives” つまり照明探偵団というも彼らの中で有名で、「面白いことやってるね」というわけです。中には探偵団に加わりたい・・・という人もいましたよ。

そんなわけで、よく訳の解らない150人の照明デザイナーの集まりでしたが、イタリアらしくてよかったのかも知れません。毎日のようにワインを飲んでグラッパにやられていたが、郷に入らば郷に従え、という風かな。私も何時になくいい加減な時間を余儀なくさせられました。まあ、1.5日間はホテルに籠ってデスクワークでしたが・・・。美味しい食事は最後の1日だけ。建築家の城戸崎なぎささんとそのお友だちの知子さん、LPAの稲葉さんの4人で、やっと街中に出て美味しいワインとイタリア料理。見本市っていやだね。

## 第10回街歩き

## 「都営大江戸線駅編」

2000年3月29日

第10回街歩きは、平成12年12月12日に都営12号線を改名し開通した都営大江戸線がターゲットでした。いわば「常に夜」である地下鉄の光はどうなっているのか、最新の地下鉄駅で探ることが目的。花粉が猛威をふるう3月も末日、面出団長もマスクをしながらの照明探偵です。今回は海外からのゲスト（北欧美女3人！）も参加してくださり、いつにもまして賑やかな街歩きになりました。

スタートは飯田橋駅から。改札を抜けて天井を見上げると、そこには緑色のパイプをネット状につなげた「ウェブフレーム」が、ところどころに蛍光灯を携え波打ちながら広がります。個性的で大胆な照明設備に団員一同は驚きの声。エスカレーターで下りて向かったプラットホームには、中央上部にくりぬかれた空間がすうっと伸びます。今までの地下鉄の駅とは違った雰囲気の中、実際の数値として照度や輝度を記録しました。

その後、一日乗車券を購入した団員一同

は存分に、でもちょっと駆け足で途中下車をしながら最終目的駅・麻布十番駅へ向かったのです。そこで近代的な地下鉄駅の調査から一変して、レトロな雰囲気いっぱいの麻布十番温泉にて入浴、懇親会です。海外ゲストの方々の貴重な意見も参考になりました。こうして、体もぼかぼかになり和やかな雰囲気の中、大江戸線照明探偵は幕を閉じたのです。



大江戸線の紹介ページ

<http://www.japandesign.ne.jp/HTML/JDNREPORT/stationdesign/index.html>



飯田橋駅



春日駅

## 第11回街歩き

## 「ビナスフォート編」

2001年6月7日

今回の街歩きではビナスフォートをターゲットとして、商業施設照明とその経済効果との関係を調査してきました。

天気はあいにくの雨で気温も低く、みんなで避難するかのようにビナスフォートに駆け込みました。調査方法は二つ。一つは照度計を用いて通路や店舗内の照度を測る方法と、もう一つは各店舗ごとに色温度を塗り分ける方法（オレンジっぽい色と白っぽい色の二種類のみ）です。調査は団員の皆さんが主体となって行われました。あまりにも堂々とお店の中でも調査をしていたため、警備員さんにしかられる場面もありましたが、それだけがんばった甲斐があり、その調査結果から色々なことが分かりました。まず、色温度は全体的に白っぽい色が多かったということ。レストランはさすがに暖色系の色合いでまとめられていましたが、服飾の店舗では眩しいほど真っ白な光を使っているところが多く、通路の照度が10 lx ~ 30 lxと暗いので余計に目立って見えました。このようにビナスフォートではそれぞれの店舗が競い合うように主張していて、統一感が感じられません。それに対して、モデルとなったラ



調査風景

スペガスのフォーラムショップスでは全体としての照明計画がしっかりとしているため、各店舗が全体の雰囲気に馴染むように計画されています。一見、照明計画の縛りを強くすると、それぞれの店舗の自由度がなくなり、集客力が弱まるのではないかとわれがちですが、東京国際フォーラムの ampm を見ても分かるように、周りの雰囲気にとけ込む様に設計されても、利用者が減少する事はありません。建物全体の雰囲気を快適なものにすることによって逆に集客力が高まるのです。しかしビナスフォートの設計者は、今後各店舗の看板などについて、さらに規制緩和を進めようとする考えを持っているようです・・・。

恒例の懇親会でも、フォーラムショップスのビデオや写真を元にビナスフォートとの



色温度調査のスケッチ

違いを見直すことができました。

今回の街歩きではフォーラムショップスとの違いを検討しながら歩く事ができたため、ビナスフォートの新たな発見ができたのではないかと思います。

## 第14回研究会サロン

【ビーナスフォート調査報告 / ラスベガス調査報告】

2001年06月11日

昨年12月以来じつに半年ぶりの開催となりました今回のサロン、外は梅雨時のじつとりとした空気でしたが20数名もの団員のみなさんが参加してくださいました。

### 集客力と照明の関係

まず、先日行われたビーナスフォート調査の結果とビーナスフォートのモデルとなったラスベガスフォーラムショップスを比較してみました。どちらも見たことがある人が口を揃えて指摘するところはやっぱり色温度。ビーナスフォートの石畳の町並みに漏れてくる店舗からのあかりが真っ白なのはちょっともったいない感じがします。一方フォーラムショップスでは一見暗そうな道にも程よい間隔で暖かい光を湛える小さな売店などが配されており、それらがさりげなく行灯の役割を担っていたりもしました。北米で面積あたりの売上高No.1を誇るフォーラムショップスとビーナスフォートとの違いは実にそんな些細なところにもあるのかもしれない。

さて、集客を目的とした照明といえば忘れてはならないのがラスベガスのフリモントストリートエクスペリエンスです。今でこそラスベガス観光の中心をストリップに奪われてしまっているものの、もともとのラスベガスの中心といえばここフリモントストリート。減ってしまった観光客をなんとか呼び戻そうと復興をかけて展開された光のショーです。通りを覆うアーチの全長はなんと450m！その一面に210万個の電球がびっしりと設置されていて、それらが色とりどりの画像を映し出すというもの。すべて白熱電球なので毎日メンテナンスをしているとか。でもこの光のショーのおかげで観光客が以前の5倍に増えたというのだから大成功◎でしょう。

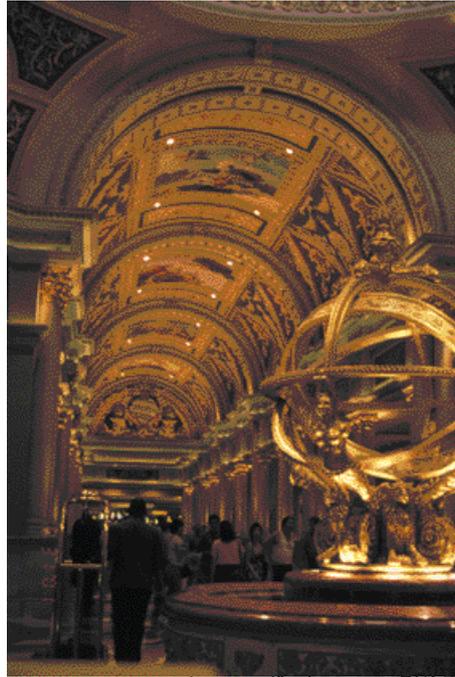


ビーナスフォートに並ぶ店舗 / 店舗の光が通りを白く照らしている

派手に明るくすればお客さんがくるというわけでもないし、やっぱり全体としての完成度なのでしょうか、集客力と照明の関係の奥深さを考えさせられたのでした。

### デザイナーのこだわり

そのほかニューオープンしたラスベガスのテーマホテルの調査結果も報告されました。ラスベガスのホテルは外観のライトアップにももちろん力が入っていますが、それぞれのテーマに沿った照明の演出もまた見ごたえがあります。



ホテル・ヴェネチアンンの列柱廊

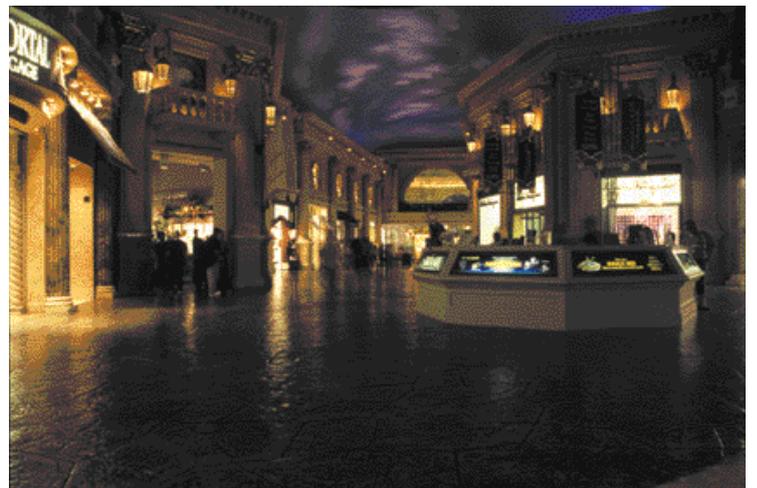
その中のひとつホテル・ヴェネチアンはIIDA賞(International Illumination Design Awards)も受賞したホテルでイタリア風の荘厳なイメージ。そのロビーに飾られている大きな絵を照らしているアジャスタブルダウンライトがギザギザした配置になっていることについて団員が質問すると面出団長がこれに答えてくれました。曰くこれは「わたしたち

は照明をデザインしているのであって、天井面を計画しているのではない！」というアメリカのデザイナーのこだわりだとか。日本の照明デザイナーはとかく照明器具をグリッドに沿った配置にしたがるけれど、彼らは天井意匠よりもそれらによって照らされる照射面を大事にするのでその結果このようになったのではないかとのこと。そして団長「ならばもっと器具自体が目立たないようにダークライトにするべきだったのでは」という指摘も忘れません。(5ページに関連記事が掲載されています)。

### ヒカリモノ

サロンの最後には毎回恒例となっているこのコーナー。今回は沢田団員が海外の面白いヒカリモノを写真で紹介してくれました。そのうちのひとつはドイツの成長する光。円錐形の乳白色の防水膜に下から扇風機で風を送ってくらませ、それが怪しげに光するというもの。もう一つはスウェーデンの青い光のかまくら。氷でできたかまくらに下から青い光でライトアップしたもの。どれも幻想的でみなそれらの写真に見入っていました。

このほか小さく光るキーホルダー(ライトフェアでもらってきた各メーカーのノベルティを含む)や、某団員がラスベガス郊外の道路脇でとってきた(!?)看板まわりの小さな反射板などなど手にとって見られるものもたくさん紹介されました。



フォーラムショップスに並ぶ店舗 / 通りにはあまり光が漏れていない

# 面出団長、「視点・論点」に出演！！

NHK 教育テレビ 2001年5月21日



只今収録中・・・

5月21日（月）22:45～22:55のNHK教育テレビ「視点・論点」に面出団長が出演しました。昨年10月に「21世紀の都市照明」というテーマでの同番組への出演に続き、2回目の出演でした。今回のテーマは「陰影をデザインする」。京都駅や東京国際フォーラムなどLPAのプロジェクトを例に挙げながら、照明デザインにおける陰影の重要性を解説しました。



収録後チェック風景

## ★★★投稿規定★★★

照明探偵団通信 vol.11（次号）の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々なレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿の送付方法は、

- 原稿をテキスト形式で保存したフロッピーを送付
- e-mailで送付

（メール上記述でも原稿テキストファイル添付でもOK）

- FAXで送付 ●郵送で送付

のいずれかをお願いいたします。また、このほかの送付方法をお考えの方は、事務局までご相談ください。投稿お待ちしております！

照明探偵団・事務局  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズ アソシエーツ内  
TEL：03-5469-1022 FAX：03-5469-1023

【照明探偵団の活動は以下の23社にご協賛いただいております。】

ルートロンスカ株式会社 岩崎電気株式会社 松下電工株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 三菱レイヨン株式会社  
ヤマギワ株式会社 株式会社ウシオスペックス 山田照明株式会社 マックスレイ株式会社 オーデリック株式会社 ニッポ電機株式会社  
株式会社エルコ・トートー 株式会社ウシオユーテック 日本フィリップス株式会社 小泉産業株式会社 株式会社遠藤照明  
三菱電機照明株式会社 大光電機株式会社 湘南工作販売株式会社 金門電気株式会社 ヨシモトポール株式会社 日本電池株式会社

## 照明探偵団日記

”ラスベガス”という響きに心躍らない人はいないと思います。カジノ、一攫千金、億万長者！！・・・そこには非日常が満ち溢れていました。そして、その非日常気分をさらに盛り上げるのにネオンや動きのある電光サインなどの照明は必要不可欠なツール。好き嫌いは別として、これだけ照明が街の構成要素としての地位を確立している都市も珍しいのではないのでしょうか？  
ライティングフェアでどんなに「時代は省エネ、長寿命、高効率！！」などと謳われようが、ラスベガスの街では1回に150万円以上の電気代が使われるという、天井一面を電球で埋め尽くしたアーケードショーが毎晩繰り広げられています。  
電気代のことが気になってしまう小市民には一夜にして億万長者になるようなギャンブルはできないのかなあ・・・、と照明過食症に陥った後のボンヤリした頭で考えてみるのでした。

（田沼 彩子）